



おかのうを D.I.O できるだけ いろんな人と おしゃべり TABLE 2025 REPORT

2024年からはじまった、平山台健康・市民支援センター（以下センター）の跡地活用を考える「おかのうえプロジェクト」。昨年は、地域にお住まいのみなさんや跡地活用に興味のある方と一緒に「Do it Ourselves（自分たち自身で考え、つくりあげていく）」をモットーにセンターの方向性を考える対話の場を全4回開催しました。その対話をもとに、平山台健康・市民支援センター跡地の方向性案をとりまとめました。今年度はこの方向性をベースに、具体的な活用方針案をとりまとめます。ぜひご覧いただき、今年度のワークショップやオンラインでの意見投稿にご参加いただくと幸いです。

今年度の参加者募集中！

おかのうえ D.I.O テーブルでは今年も地域にお住まいのみなさんや跡地活用に興味のある方と一緒に「Do it Ourselves（自分たち自身で考え、つくりあげていく）」をモットーに「D（できるだけ）、I（いろんな人と）、O（おしゃべりして）」センターの方向性を考える対話の場を開催します！今年度は他の地域に視察に行ったり、検討した取り組みアイデアをセンターでお試してみているイベントなども行う予定です。途中からの参加も大歓迎です。ぜひご参加ください。

プログラム

※プログラムは進行状況や対話の結果をふまえて変更になることがあります。

第1回

2026. 6. 7（日）10:00-12:30

昨年度の対話をもとに、視察先やどんなお話しをしたいか考えよう

第2回

2026. 7. 5（日）10:00-12:30

テーマ「視察の準備と、お試しのアイデアをブラッシュアップさせよう」

視察

2026. 8月下旬（調整中）

みんなで視察に行って、方向性案を検証しよう



第3回

2026. 9. 27（日）10:00-12:30

視察の振り返りと、お試しの準備をしよう

お子さん連れの参加について

小さなお子さんには託児サービスもあります。また小学生以上のお子さんはワークショップと一緒に参加していただくことも可能です。お気軽にご参加ください。



会場

平山台健康・市民支援センター
1階エントランス

お話し

2026. 10月下旬（調整中）

センターを使って活用アイデアを試して検証しよう



第4回

2026. 11. 22（日）10:00-12:30

お試しの振り返りと、これまでの対話を活用方針案に反映させよう

第5回

2027. 1. 24（日）10:00-12:30

活用方針案をブラッシュアップしよう

第6回

2027. 3. 14（日）10:00-12:30

活用方針案をふまえて、次年度以降の取り組みを考えよう

オンラインでもアイデア募集！

当日参加が難しい方は地域共創プラットフォームからオンラインで平山の未来にアイデアを投稿できます。右記2次元バーコード参照

アイデア投稿へ▼



申込み方法

参加希望される方は、右の2次元バーコード先専用フォームからお申込みください。

定員：30名程度（事前申込優先制・託児あり）

本事業へのお問い合わせ：企画部 企画経営課（担当：岩崎）042-514-8069

申込み専用フォームへ▼



おかのうえ D.I.O TABLE 平山台健康・市民支援センターの方向性（案）

本事業について

平成20年に開設された平山台健康・市民支援センター（※以下、センター）は、建物の老朽化から令和10年度末をもって供用停止が予定されています。それに伴い、今年度より施設の跡地活用方針の検討やサウンディング調査を実施し、その結果をもとに令和9年度に基本計画を策定することとなりました。地域の暮らしをより良くしていくためには、住民のみなさんが、学び、考え、話し合い、活用に向けて取り組むことが大切です。

検討のステップ

- 1 現状を知る・共有する
- 2 まち全体の将来像を考える
- 3 実現に向けての取り組みを考える
- 4 取り組みに必要な空間・しくみを考える

今年度のワークショップの流れ

- 第1回** 10月26日（日）10:00-12:30
テーマ「平山地域のこれからの暮らしを考える」
- 第2回** 11月30日（日）10:00-12:30
テーマ「実現したい未来から、センターのこれからの考える」
- 第3回** 1月11日（日）10:00-12:30
テーマ「他地域の事例を学び、アイデアを広げる」
- 第4回** 3月21日（土）13:00-16:00
テーマ「今年度の対話をふりかえり、来年度を考える」



平山地域の魅力と課題

魅力

- ・自然環境、緑の豊かさ
- ・居住環境の良さ、閑静な環境
- ・高齢者とのつながり、地域とのつながり
- ・公園環境の良さ
- ・住宅環境、区画の広さ
- ・周辺に大学が多い
- ・都心へのアクセス
- ・若い世代の入居が増えている
- ・センターの存在や施設の利用形態
- ・センターを介した子どもたちの交流
- ・穏やかな雰囲気や住民や素朴で温かい子どもが多い

課題

- ・公共交通機関の交通問題、アクセスの不便さ
- ・坂道が多い、歩道が狭い
- ・商業の空白（徒歩圏内にスーパー等がない）
- ・飲食店や食事のできる場所が少ない
- ・地域住民の高齢化
- ・空き家が多い
- ・防犯問題（空き家や泥棒など）
- ・災害時の避難場所の確保
- ・自治会に入る人が減ってきている（主に若い世代）
- ・新しく入ってきた人たちが地域住民との関係づくり
- ・放課後の子どもたちの居場所（共働き世代の増加）

今後のまちづくりのポイント

・地域住民のつながりや交流促進	集まる
・いざという時の共助づくり	支え合う、備える
・それぞれの楽しみを生かす	遊ぶ、楽しむ
・地域資源や自然環境の活用	（楽しみを）ひろめる
・自ら学び、変化していくことを楽しむ	学ぶ、育てる

目指したいまちの将来像と取り組みアイデア

平山地域のまちづくりの将来像

- ・まちに集える拠点と機会があり、外出したくなるまち
- ・学びや楽しさが巡り、人が集まるまち
- ・ハレとケを楽しみ、安心して生活できるまち
- ・ペットも人もつながり、食を通して健康になるまち
- ・楽しい活動を自ら生み出し、助け合える関係性のまち

センター跡地の活用コンセプト

- ・つながる、はぐくむ、おかのうえの〇〇
住民が安心して集まれる包括的な場
- ・みんなのもうひとつの家、“HOME”
住民が安心して集まれる包括的な場

求められる役割

- ・住民自らが目指したいまちをつくる取り組みを生み出すための活動の実験場
- ・住民が集い、知り合い、顔の見える関係性になる場
- ・自分たちの楽しみを自分たちでつくりだす場
- ・平山の豊かな自然を住民と来訪者がともに愉しめる場
- ・子どもから大人、ペットまでが集え、思い思いに過ごせる場

期待される効果

- ・平山地域全体での住民同士の交流促進
- ・住民の楽しみや持っているスキルを活かした活動の創出
- ・家の近隣で活動することで健康増進や共助の関係づくり
- ・起業や新規事業に挑戦するための試験的実施

- 活動に参加し顔のみえる関係性が増える
- ⇒新しいことにもチャレンジする
- ⇒地域内で誇り・愛着が生まれる
- ⇒住み続けたいまちへ

求められる5つの要素

集まる

これまでに提案された取り組みアイデア

- ・多目的な集会所／私設公民館
- ・シェアキッチン&カフェ
- ・スポーツを愉しめる場
- ・地域の図書館
- ・地域の人が集うお祭り

支え合う、備える

- ・防災キャンプなどの防災訓練
- ・仕事を頼みたい、したい人が集うアウトドアカフェ

遊ぶ、楽しむ

- ・おかのうえナイトマーケット
- ・おかのうえドッグラン
- ・みんなで楽しむ屋外上映
- ・共通の趣味の人がであう場づくり
- ・既存の多様な活動の継続実施
- ・花火会の運営

（楽しみを）ひろめる

- ・平山城址ロマンチック遊歩道
- ・平山地域の自然の魅力を伝えるビジターセンター
- ・多摩の自然を楽しむハイキング道づくり

学ぶ、育てる

- ・おかのうえ Farm
- ・自然を学べる学校
- ・里山プロジェクト「かがくの里」
- ・プールを転用した釣り堀

跡地に求められている空間的要素と運営方法

- ・基本的なライフライン
（水道（屋外水栓含む）/ トイレ / 空調（屋内空間）/ 夜間照明）
- ・グラウンド（防災やまちづくりの活動でも活用可能）
- ・避難所としての機能
（最低限のライフライン+自家発電、井戸、畑など）
- ・軽飲食が可能な屋内空間
- ・備品（パーテーション）等で変化をつけられるフレキシブルな多目的空間や、小さな空間（タイニーハウス等）の集合体
- ・住民がアクセスしやすい環境整備
- ・人員配置を最小限におさえる運営方法（常時人が必要でない方法）

来年度に検討したいこと

- ・中高生などワークショップに来ていない住民の意見収集
- ・運営方法、主体
- ・敷地のゾーニング
（どこをどう活用するか）

学びたいこと

- ・取り組みアイデアを実現・運営していくノウハウ
- ・先進地視察
（小学校跡地や公園活用、防災拠点、タイニーハウス等）
- ・取り組みベースで学びたいことを改めて検討
- ・空き家活用について学ぶ

取り組んでみたいこと

- ・中高生へのワークショップ
- ・空き家を活用した取り組みの実践
- ・実現性を高める勉強会